

僕の父親

熊本県 熊本県立八代中学校 1年
松田 裕季（まつだ ゆうき）

「ただいま。やったあ、今日はカレーだ〜。」

僕の父が作った特製カレーライスはお店に出してもいいくらいに、最高においしいです。僕の大好きなメニューの一つです。

僕の家族は、父と母、兄の四人家族です。僕の父は、同じ八代の学校で仕事をしていますが、早く帰ってくる事が多く、洗濯や掃除を毎日パッパとこなしています。僕が服を脱ぎっぱなしにしていると、すぐに注意してくれ、次の瞬間、服は片付けてあります。

母は毎日、僕より遅く帰宅することが多く、休日はほとんど部活動の練習や試合でいません。家族の中で家にいる時間が一番短い人です。つまり、皆さんのお父さんやお母さんと少し違うところがあるのです。それは、僕の家は、父親が家事をし、母親が外で働く家庭なのです。

なぜそうなったかという、保育園の時に僕たちのことを一番可愛がり、お世話をしてくれた祖母が亡くなり、父が子どもの世話をするという事で仕事を辞めたからです。

「子どもたちのそばに大人がいたほうがいいから、俺が子どもたちのそばにいる。」
と言って、長年勤めていた会社を辞めてしまったそうです。当時のことを聞くと、「本当にそれでいいかわからなかった。本当は、男が働かなければならないのに。でも、仕事よりも子どもが大切だから。」

と言っていました。そんな父の言葉を聞いて、改めて父親の存在の大きさを知りました。母もその言葉を聞いたとき、

「こんな時、辞めるのは普通は母親の方なのに、本当にいいの？」
と、不安に思ったそうです。

男女共同参画社会とは、

「男女が、社会の対等な構成員として、均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、共に責任を担うべき社会」のことです。これまでに、僕もあまり聞いたことがなかった言葉ですが、今回、母からうちの事情を聞いて知ることができました。僕も男の役割、女の役割を決めつけるのは反対です。男だからしなさい、女だからしなくていいという考えでは、やりたいこともやりづらい状況が出てくるからです。

また、母の男性の友達、子どもの世話をするために十年ほど前に育児休暇を

取られたそうです。その頃は、男性が育児休暇を取ることが珍しく、子どもと外を歩いているだけで、

「あら、今日はお休みですか。」

と、近所の人から聞かれ、二日目までは笑って聞かれたけど、三日目からは話しかけてももらえなかったらしいです。それは、おかしいと思いました。なぜ、お父さんは子どものために仕事を休んだのに、近所の人に変な目で見られなくてはならないのでしょうか。

僕の父も、僕が三歳のころから保育園の送迎をしてくれたり、遠足も父と一緒に来てくれることが多かったです。小学校の頃は柔道の送迎や試合の応援もほとんど父でした。僕の父もそんな目で見られていたのでしょうか。

今の日本には、

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。」

という固定的性別役割分担意識と言う考えが根強く残っているため、男性が家事をしていると、変な目で見られることがまだまだあるようです。僕は、「女性が家事をする」と決めつけるのではなく、家事は家にいる人が行えばいいことであり、仕事から先に帰宅したほうがやれば、互いに気持ちよく過ごせると思います。

父が仕事を辞めて十年経った今、改めて気持ちを聞いてみると、

「最初はつらいこともあったけど、もう慣れたよ。特に、洗濯物を干すのは抵抗があったな。でも、昔から掃除は得意だったし、裕季たちといっぱい関わったので、賢明な選択だったと思うよ。」

と、話してくれました。休みの日にゴロゴロしたり、お酒を飲み過ぎて僕とけんかしたりすることも多いけど、今まで大好きな柔道や野球を思いっきりやってこれたのも父がいてくれたおかげだと気づきました。

仕事を目一杯する母と、家で僕のお世話をしてくれる父。僕の家族は、ちょっと変わっているように見えるけど、実は、ごく普通の僕にとっては当たり前家族です。

これからの僕たちは、「男だから・女だから」という差別的な考えを捨て、男女共同参画社会に対する認識を深めていく必要があると思います。話し合いで進んで家事を引き受けた僕の父は、やっぱり自慢できるカッコいい父です。父が作ったカレーは、僕の中ではナンバーワンです。